

「平成28年度 児童・生徒の学力の向上を図るための調査」

江戸川区立一之江第二小学校 5年担任

調査日 : 平成28年7月7日 (木)

対象学年 : 第5学年

実施人数 : 147名

教科 : 国語・社会・算数・理科

結果

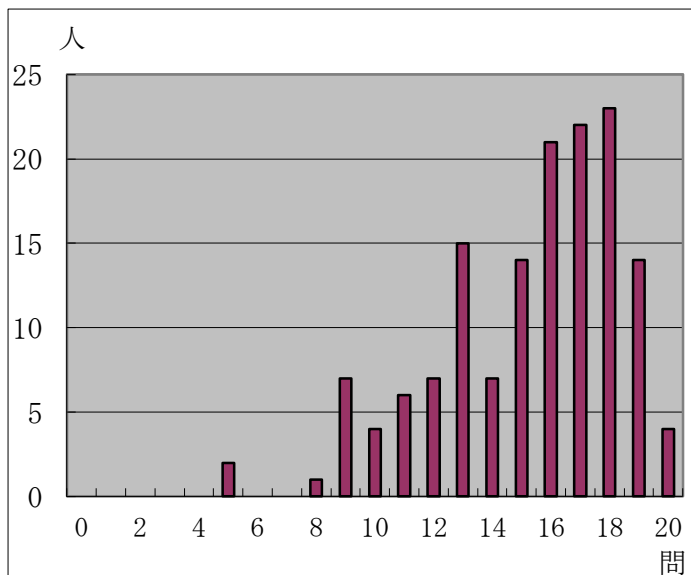
教科	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			AとBの合計		
	学年	江戸川	東京都	学年	江戸川	東京都	学年	江戸川	東京都
国語	79.3	73.5	76.5	59.6	60.1	61.8	76.3	71.5	74.3
社会	79.0	71.0	72.9	78.8	70.2	71.7	78.9	70.8	72.9
算数	73.1	64.1	67.7	50.6	39.4	42.9	68.7	59.3	62.9
理科	68.2	61.0	63.5	65.5	57.0	59.2	67.6	60.0	62.4

※単位は正答率 (%)

※都の結果は抽出校。区の結果は、区内全校。

分析 (○成果 ●課題)

国語

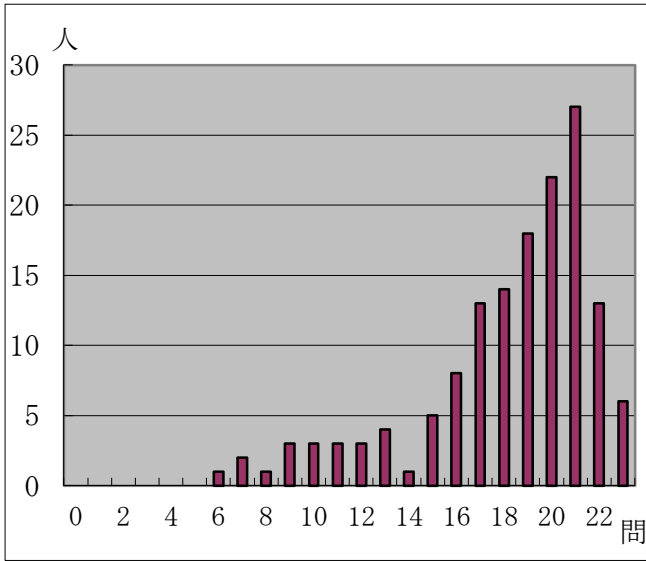


○言語の知識・理解・技能に関する問題の正答率が高く、接続語や漢字などの基礎的な知識が身に付いていると考えられる。

○読む力について東京都の平均を超えている。

●書く力と、読み解く力に関する内容（特に解決する力）の正答率がそれぞれ42%、29%（東京都平均は、54%、33%）と低かった。文章に書いてある内容や要旨をとらえることはある程度できるが、それをまとめたり、それに対して自分の意見を文章化したりする力に課題があると考えられる。

社会

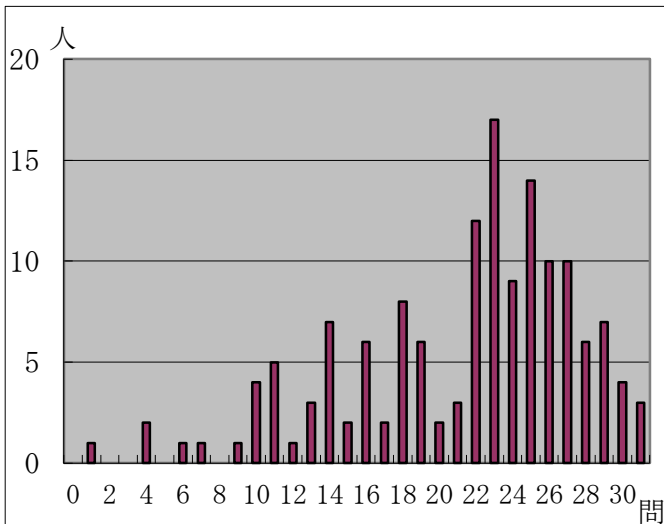


○知識・理解の内容に関しては、正答率が82%（東京都平均69.9%）と高く既習が定着している傾向がみられる。「都道府県の地名」に関しては、復習が必要である。

○資料の読み取りについては、84.9%と正答率が高い。ただし、資料が複雑化したり、2つ以上の資料を比較・関連付けたりして読み取る力は69.7%（東京都平均65.5%）と大幅に下がる。

読み取ったことから思考し、自分の考えを表現する活動を日頃の授業から、増やすようにする。

算数

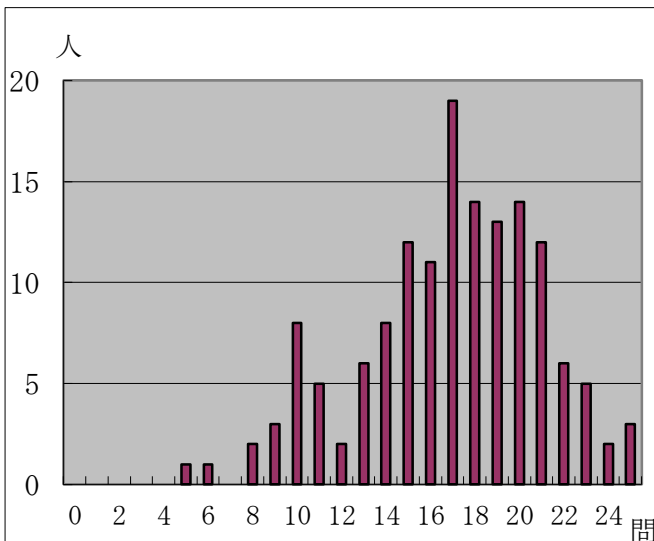


○基礎・基本的な問題では、正答率が高い傾向にあった。数学的な考え方では、70.1%（東京都平均54.8%）と東京都の平均を大きく上回っている。

●「数量や図形」に関する内容では、正答率は落ち込む傾向があるので、特に復習が必要である。

●応用的な問題や複雑な問題となる読み解く力の内容は正答率が低い。特に、問題の規則性や関係性に気付き、回答するような問題の正答率は16.3%であった。

理科



○観察・実験の技能の内容は、59.5%と東京都の平均48.4%と比較するとかなり高い。体験を通して得た知識は、身に付きやすいと言える。実験・観察や日頃の生活体験を大切にしていこう。

●2つの実験から結果を総合して答えを導き出す問題のような読み解く力の正答率が低い。授業の実験や観察で出た一つ一つの結果から、他の事柄とのつながりを考察し、考えを広げることができるようになる。

●記述問題に課題がある。日頃から自分の考えを書く活動を取り入れていく。